

近年のてん菜病害虫について

日時：2026年2月5日(木)

場所：芽室町 めむろ一ど・セミナーホール

高品質てん菜づくり講習会

道総研 中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ 三宅規文



R7年度に多発生となった病害虫

平年より多かった主要病害虫(R7年度の発生概況、北海道病害虫防除所)

※赤色：多、青色：やや多

水稲
秋小麦
春小麦
大豆
てん菜

たまねぎ
ねぎ
キャベツ
りんご

斑点米カメムシ・ヒメトビウンカ

眼紋病

ムギキモグリバエ

わい化病

褐斑病・ヨトウガ(1回目)・ヨトウガ(2回目)・

テンサイモグリハナバエ

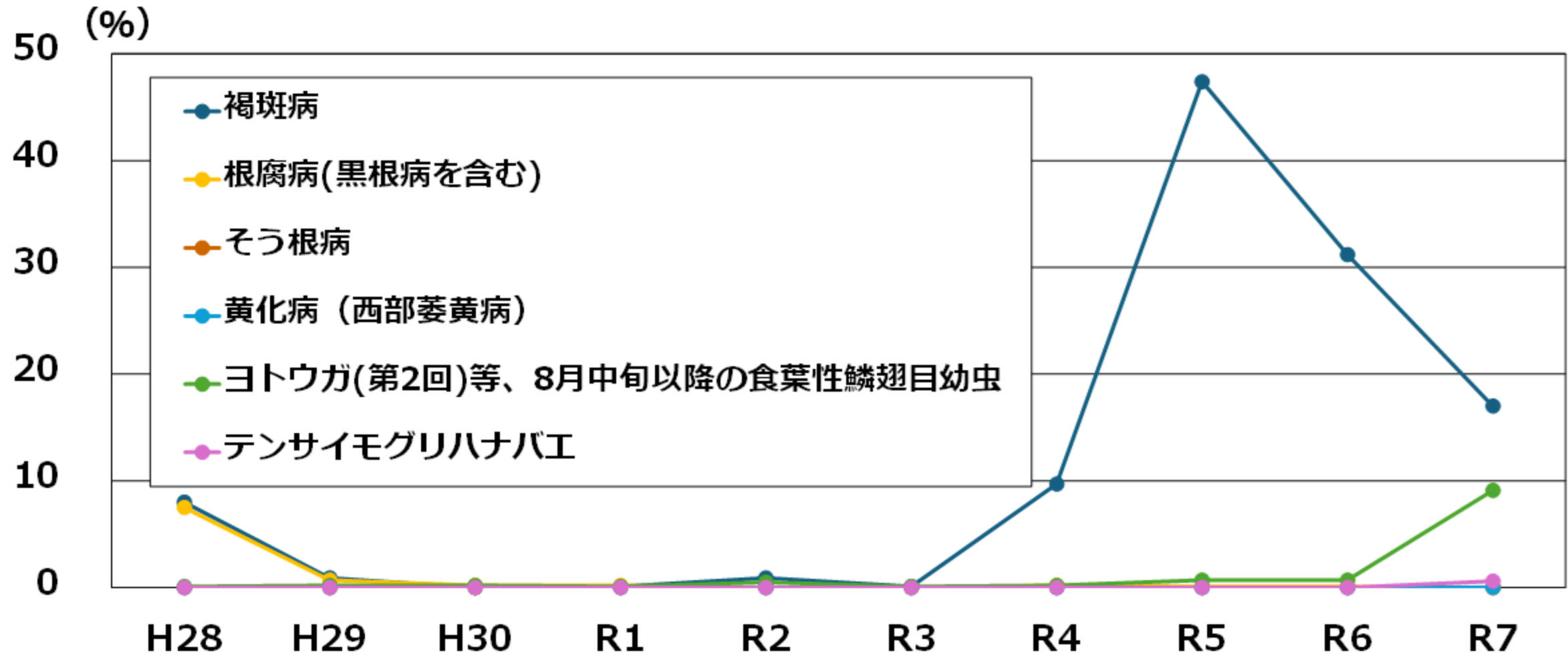
ネギアザミウマ

ネギアザミウマ

コナガ

腐らん病

てん菜主要害虫の年次別被害面積率



引用：農作物有害動植物発生予察事業年報

R7年度に多発したてん菜の病害虫

褐斑病

- 夏季の高温多湿で多発生。
- 連作ほ場(特に前年に被害葉を鋤き込んだほ場)や前年の栽培ほ場の隣接地では早発傾向。
- 葉齢や気温で潜伏期間が異なる。
- R7年度は予察ほ場(無防除)での初発時期が平年より早く、またR6年度は多発生で一次伝染源が多いと推測されたため、6月30日に注意報を発表。
- 過年度の発生状況は、
 - R6年度：多
 - R5年度：多
 - R4年度：やや多
 - R3年度：少
 - R2年度：少
 - R1年度：少



てん菜の褐斑病
(野津原図)

R7年度に多発したてん菜の病害虫

褐斑病

防除方法

- 抵抗性品種の利用。
 - 輪作、罹病残渣を鋤き込まない。
 - 茎葉散布を以下のとおり実施する。
 - 1) DMI系・QoI系・ヘキサピラノシル系・MBC系などで耐性菌発生
 - 2) 初発直後までに散布開始
 - 3) マンゼブ水和剤主体の防除
 - (1) 抵抗性が“強”以上の品種では、
 - ① マンゼブ水和剤 : 14日間隔
 - ② 銅水和剤、硫黄・銅水和剤 : 7日間隔
 - (2) 抵抗性が“やや強”以下の品種では、
 - ① マンゼブ水和剤 : 14日間隔
- ただし、高温多湿条件となった場合は10日以下とする。

R7年度に多発したてん菜の病害虫

シロオビノメイガ

- 飛来性害虫。幼虫が、てん菜・ほうれん草・ウリ類野菜の葉を加害。
- R7年度は予察灯の初発日が平年より1ヶ月以上早く、また予察ほ場(無防除)でも幼虫の発生が確認されたことから、7月17日に注意報を発表。



シロオビノメイガ (三宅原図)
左：幼虫
右：成虫

R7年度に多発したてん菜の病害虫

シロオビノメイガ

防除方法

○ 幼虫の加害時期に、茎葉散布する。ただし、ヨトウガに対して防除を実施していても本種の被害が抑えられないことがあるため、本種に登録のある薬剤(表7)を選択する。

表7 てん菜のシロオビノメイガ登録剤

薬 剤 名	系統 (IRACコード)
チアメトキサム・ルフェヌロン水和剤DF	4A、15
スピネトラム水和剤F	5
カルタップ水溶剤	14
フルフェノクスロン乳剤	15
ルフェヌロン乳剤	
ノバルロン乳剤	
クロラントラニリプロール水和剤F	28
フルベンジアミド水和剤DF	
プロフラニリド水和剤F	30

※1 赤字は、指導参考事項となっている薬剤。

R7年度に多発したてん菜の病害虫

シロイチモジヨトウ

- 飛来性害虫。幼虫が、アカザ科・ウリ科・マメ科・アブラナ科・ネギ類等を加害。
- 幼虫は側線の白色が明瞭。成虫は体長15mm。複数薬剤で感受性低下の報告。
- R7年度は、フェロモントラップ^o誘殺数が急増したことから8月21日に注意報を発表。
道央・道東の広い範囲のてんさいほ場やキャベツほ場で発生。
- R7年度の都道府県注意報件数：20件(12.14現在)、R6年度：8件、R5年度：9件。



シロイチモジヨトウ (小野寺原図)
左：成虫
右上：幼虫1
右下：幼虫2

R7年度に多発したてん菜の病害虫

(参考情報) ヨトウガ

- 蛹が地中5cm内外で道内越冬、年2回の発生。毎年6月上旬頃から羽化
- てんさいの他、アブラナ科、ナス科、セリ科、ウリ科等、多くを食害する広食性。



ヨトウガ (三宅原図)

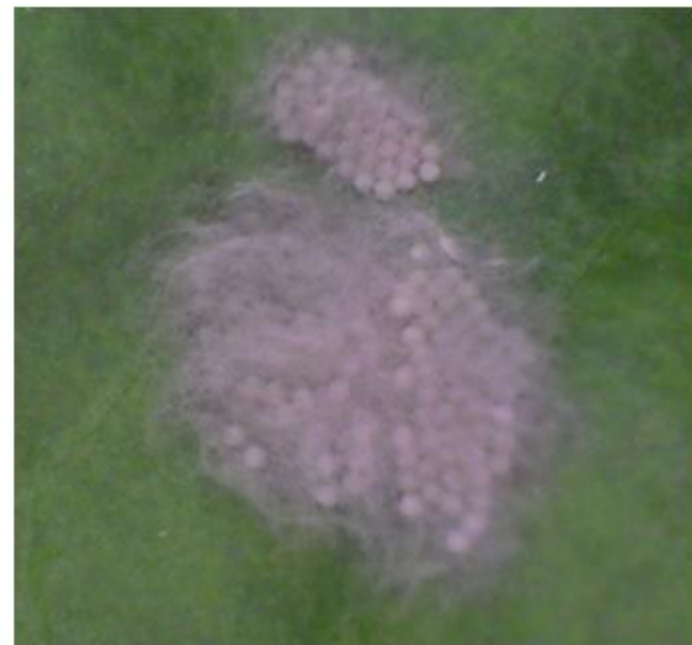
左上：卵塊

左中：4 齢幼虫

左下：6 齢幼虫

右上：1 齢幼虫

右下：成虫



シロイチモジヨトウ卵塊 (下間原図)

R7年度に多発したてん菜の病害虫

シロイチモジヨトウ

防除方法

- 加害のおそれがある作物ではほ場の観察に努め、発生を確認したら薬剤が効きやすい若齢幼虫のうちに防除を実施。
- カーバメート(IRAC : 1A)、有機リン(1B)、ピレスロイド(3A)、ベンゾイル尿素(15)、最近では一部のジアミド剤(28)など、各種薬剤の感受性低下が報告されている。

R7年度に多発したてん菜の病害虫

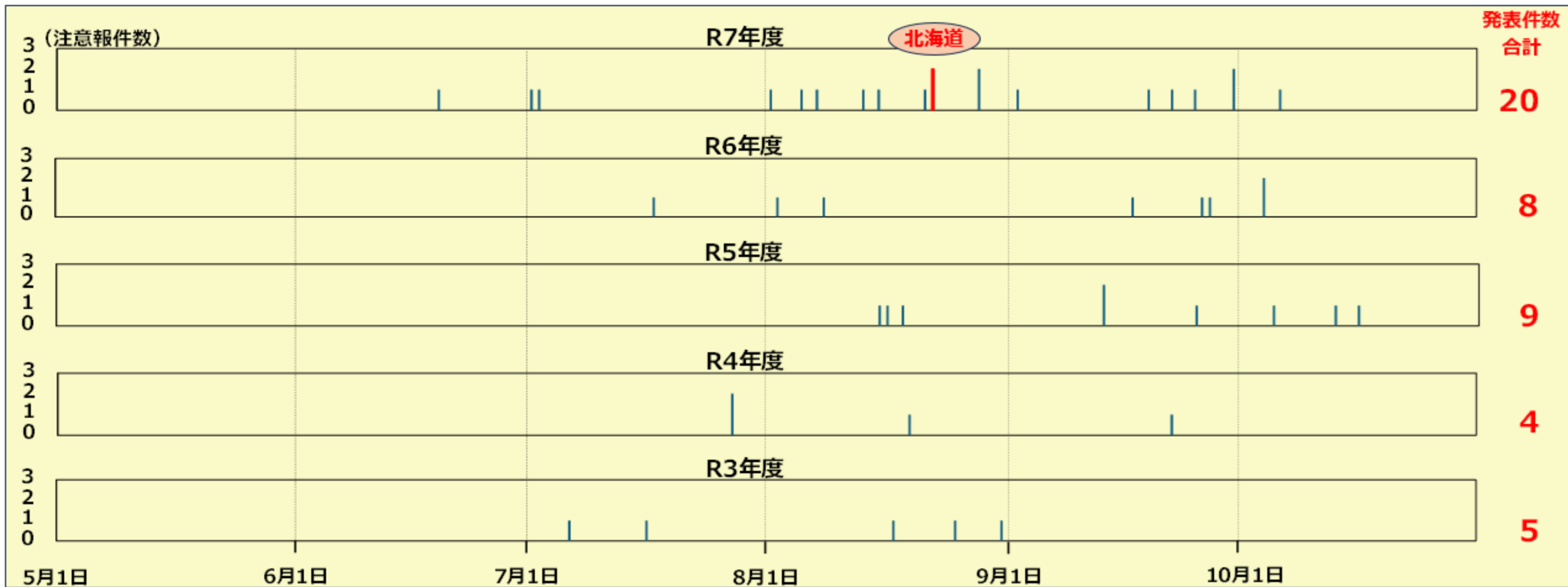


図2 全国（各都道府県）のシロイチモジヨトウ注意報の発表月日（R3～7年度）

キボシマルトビムシ



キボシマルトビムシ(左)とてん菜葉の被害(右)

アブラムシ類 (モモアカアブラムシ・マメクロアブラムシ)



モモアカアブラムシ(左・中)、てん菜黄化病(旧名：西部萎黄病、右)



マメクロアブラムシ

ネキリムシ類 (タマナヤガ・カブラヤガ)

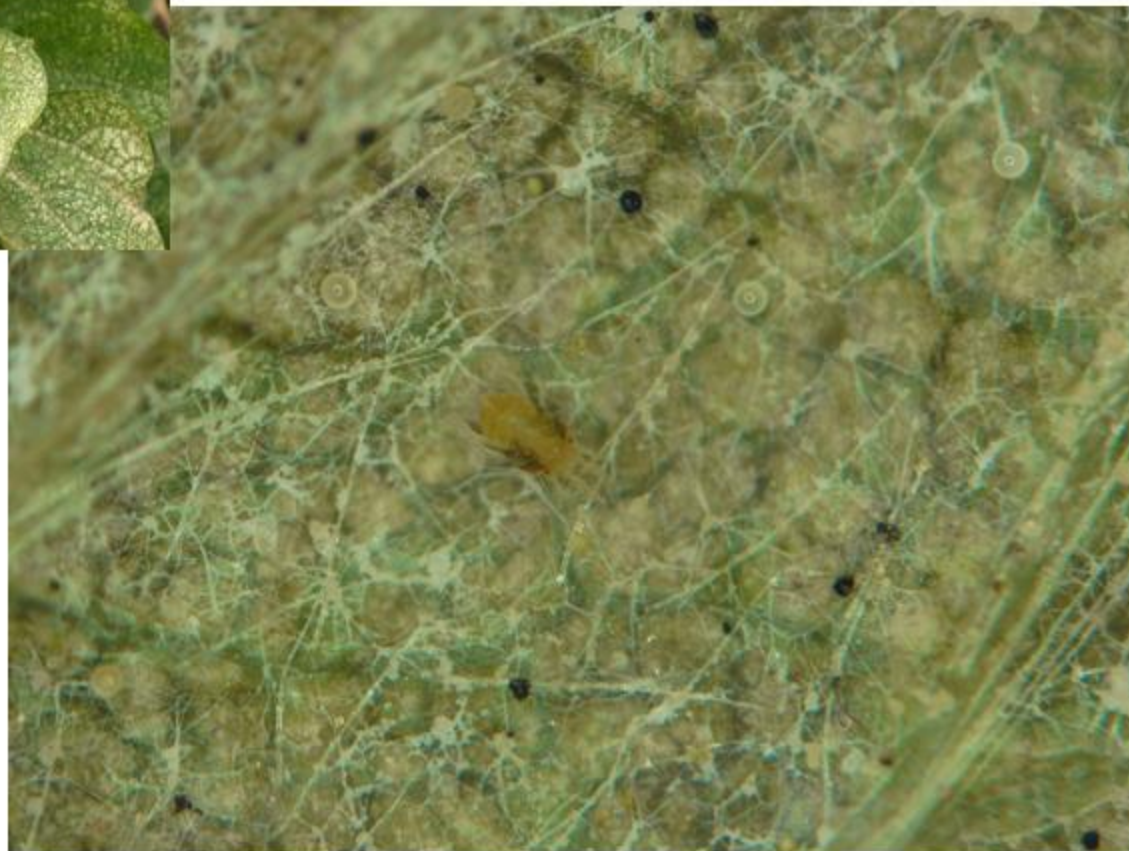


ネキリムシ類幼虫(左：タマナヤガ、右：カブラヤガ)

ハダニ類(小野寺原図)



ナミハダニによる菜豆被害葉



ナミハダニ